

グローバル人材育成 特別コース



学生たちが将来グローバル社会で活躍できるように、語学教育や教養教育、専門教育において、学習を全面的にサポートするコース。コースの授業科目は、自分の学部に所属したまま履修できる。コースで求められる科目をすべて修めれば、修了証書が与えられる。留学先は岡山大学との協定校であるため、岡山大学に学費を払うだけでよく、留学先の大学に学費を納める必要はない。

岡山大学
グローバル人材育成特別コース
GLOBAL HUMAN RESOURCE DEVELOPMENT



▲日本文化理解 能体験

最初は苦労の連続だったという。普段は内気な性格だが、「自分から話さない」とも解決できない」と一念発起。徐々に積極的にコミュニケーションをとるようになっていった。「留学したおかげで、度胸がついた。はじめは仲間の力を借



▲ヨーク大外観

「『グローバル』海外に行くこと』だとは思わない。日本にいながら、世界中の人を幸せにできる人になりたい。」
その確かな「答え」を見つけるため、これからは仲間と切磋琢磨していく考えだ。

仲間との交流が一番の刺激

「人とは違う大学生活を送りたい」。そんな漠然とした思いから、澤晃太郎さん（工学部機械システム系学科）は、当時新設されたばかりのグローバル人材育成特別コースを履修した。英語は決して得意科目ではなかったが、「コミュニケーションツールとして、将来役立ちそう」という考えもあったからだ。

同コースは国際社会でリーダーシップを発揮できる人材を育成しようとして、昨年度からスタート。英語力養成、海外研修・留学などのプログラムがある。全学部生が履修でき、1期生は澤さんを含む51人がいる。



▲東芝サマーインターンシップにて

りながら、最後は自分の足で一歩を踏み出して良かった」と振り返る。さまざまなチャンスにも恵まれている。同コースでは、海外インターンシップや国際イベントなどの情報提供が豊富だ。澤さんも今夏、「東芝サマーインターンシップ2014」に参加。同社の「スマートコミュニケーション」（川崎市）で、海外営業を担当した。「コースをきっかけに培われた経験と英語力。そして多くの先生方のご指導があったからこそつかめたチャンス。これからも感謝の気持ちを忘れず自分自身の可能性に挑戦し続けたい」と意気込む。

度胸がついたイギリス留学

講義では英語を母国語とする教員から、「TOEFL」試験の対策や英語での議論・プレゼンテーションの指導が受けられる。澤さんは、入学当時、「TOEIC」の点数は630点だったが、同年12月には約800点にまで伸びた。

能鑑賞や地場企業の見学といった勉強もあり、海外に目を向けるだけでなく、自国の歴史、文化へ理解を深めることも重視されている。文理を問わず、さまざまな学部、

昨夏、イギリスのヨーク大学へ1カ月間、語学留学した。澤さんにとって、海外へ行くのも初めて経験。発音の違いから言葉が通じなかったり、相手の話すスピードが速すぎて理解できなかったりと、

最初は苦労の連続だったという。普段は内気な性格だが、「自分から話さない」とも解決できない」と一念発起。徐々に積極的にコミュニケーションをとるようになっていった。「留学したおかげで、度胸がついた。はじめは仲間の力を借

澤 晃太郎

グローバル人材育成特別コース（工学部機械システム系学科2年）

SAWA KOHTARO



研究、スポーツ、趣味、特技... 学内外のさまざまな場面で活躍する岡大生たち。そんなきらりと光る学生を、同じ学生の目線から紹介する。